

附属図書館長挨拶



小樽商科大学附属図書館長
渡 邊 和 夫

図書館には個性がある。典型的には蔵書にそれがあらわれる。蔵書は図書館が出来てから今日に至るまでの歴史的な積み重ねによって形成される。先人達の努力がそこに反映されている。毎年、少しずつ収集されてきた書籍は図書館の貴重な財産になっている。図書館によって蔵書内容が異なるのは自然の成り行きといえよう。この個性をどう生かすかは運営する側だけでなく、利用者にとっても大切なことである。

図書館は知識の宝庫でもある。さまざまな情報を入手することができる。とりわけ大学の図書館には研究に必要な書籍や雑誌が豊富に整備されている。それらをどう生かすかは利用者の力量にかかっている。大部分の研究者にとって図書館は知識の源泉として欠かせない存在になっているのではないかと思われる。図書館を上手に利用すれば、知識を無限に拡大させることが可能であろう。

この概要により、本学の図書館の特色を理解していただき、研究その他に役立てていただければ幸いです。